

東京新橋ロータリークラブ会長賞

森に愛ある行動を

高陵中学校 神戸 百合子

森はとても大切です。このことは、多くの人が知っているとされています。しかし、私は森のことを知ったつもりになっているだけでは、と思うのです。実際に、私達が森について何を知っているかというところ、「森が水を作っていること」、「森が海を豊かにしていること」くらいです。小学校のときに習ったそれだけの知識で良いのでしょうか。まずはもっと深く知ることから始め、行動に移すことが大切だと思います。

今、港区では森のために様々な事業が行われています。例えば、「間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定」です。これは、簡単にいうと国産の木材の活用を促進するのと伐採後の再植林を保証するというものです。現在港区は全国三十二自治体とこの協定を結んでいます。この森の保存の協定は、私達の生活に欠かせない豊かな水を守ることに役立っています。

他にも「みなと区民の森づくり」という、あきる野市との交流事業も進んでいます。内容は、二十ヘクタールの森をあきる野市から借り受け、港区民が整備するというもの

です。長く手つかずだった森を整備することで森を元気にし、CO₂の削減をはかるとともに、子供や区民の自然観察・環境学習にも役立ちます。こうしたプロジェクトに私達区民が積極的に参加すれば、正しい知識をどんどん得ることができるようになります。

森のことを考えると、私達はある程度便利さを捨てなければいけないと思います。なぜなら森を伐採するとか、荒れた林を放置してしまうとかの理由は、どれも便利さを求める「めんどくさい」だからです。例えば「目的地に速く行きたい」や「林の手入れは重労働だからやめよう」などです。しかし、全ての便利さを捨てるのは無理でしょう。だから、みんなが少しずつ「妥協」して、森のことを考えることが大切だと思うのです。

今、日本では里山がただの荒れた林に変わり、森がゴミ捨て場となってしまっています。自然を残すというのは自然を放っておくのと違います。とくに森は人が手を加えなければどんどん荒れていってしまうので、もっと森と親しみ、身近に感じていった方がいいと思うのです。それは林業の大切さに気付くということなんです。現在日本の林業は失われつつあります。それは私達若者が職業として林業を考えていないからです。今、職を探している人達の中には、林業に適した人もいると思うので、林業という職業の選択肢も考えてほしいです。

私もこれからは、港区のプロジェクトを初め、自然保護の活動に積極的に参加しようと思いました。また、林業な

どの自然とかかわる仕事も真剣に考えていこうと思います。